

4-1-6-2 脳神経外科

1. 概要

1.1 2006 年度の活動と特色

脳神経外科開設 5 年目となった 2006 年度は 184 名（生後 1 日-26 才）に対して計 261 件の手術を施行した（一人平均 1.4 件）。水頭症・先天異常・腫瘍・機能的疾患など各分野の手術件数も順調に増加しており、手術件数は開設初年度の 2002 年 67 件、2003 年 164 件、2004 年 190 件、2005 年、220 件と推移し 2006 年度は前述の通り 261 件となっている。当然のこととして、入院患者数とも前年度より増加しており、現在の体制では殆ど限界に近い状態にある。幸い、総合診療部をはじめとする病棟及び NICU, ICU での術後患者管理の支援がしっかりしていること、及び合併症が少ないためなんとかやってきているが、余裕のある診療体制を確立することは急務となっている。

国立成育医療センター脳神経外科の任務は、小児脳神経外科領域における最高レベルの医療の提供と、若手脳神経外科医の教育、特に次世代を担う小児脳神経外科医の育成にあると考えている。

前者については、手術件数及びその内容・質では国内のトップレベルにあると自負しており、これからはアジアそして世界レベルに比するだけの実力を目指せる基礎ができたと考えている。

後者については、外科治療に対する現在の社会風潮の中で、4K と言われる脳神経外科希望者が激減しその中でも小児希望者を確保するのは容易でない。優秀な人材を集めることは決して容易でないが、幸い、過去 5 年間で 10 名の若手医師に小児脳神経外科を研修してもらうことができ、それぞれの職場で活躍中である。小児脳神経外科エキスパートの育成という役割を目指して、これからも小児神経外科を希望する若手脳神経外科医に出身・所属と関係なく研修できる環境を提供していきたいと考えている。

2006 年度の治療面における大きな進歩としては、神経内科と共同でてんかん外科治療に本格的に取り組む体制ができたことがあげられる。ビデオ脳波同時持続記録システムを購入し、難治性てんかん患者の診断、術前評価、硬膜下電極挿入によるてんかん焦点の同定・脳機能同定に役立っている。てんかんは神経系の疾患の中では最も多いものであり、小児期に大半が発症するので、今後はてんかん治療 unit の構築も視野に神経内科とともに難治性てんかんの治療に取り組んでいく予定である。又、頭蓋内圧モニタリングは従来は主に重症頭部外傷を対処言うに施行していたが、ICU で脳炎患者の頭蓋内圧管理にも応用を開始した。新たな試みが、重症脳炎の病態を明らかにし、救命に役立つことを期待している。

その他の治療面に関しても、従来通りの業績を積み重ねている。水頭症に対する内視鏡手術は小児例では他の追随を許さないものがあるし、脊髄病変をはじめ各種手術における術中神経生理学的手技の応用は 81 例に行ない、全手術の約 3 割に施行していることになる。頭蓋底脳瘤に対する新たな術式の開発、深部脳腫瘍の切除、必要に応じて関連各科との共同手術など、本当の意味でのチーム医療の成果を積み上げてきた。これからも、小児脳神経外科領域における難易度の高い手術・治療法の開発が待たれる分野に対し、ナショナルセンターとしての使命感を持って取り組んでいくつもりである。

2. 診療及び研究活動

2.1 診療体制

脳神経外科の診療は医長 1、医員 1、研修医 1 の 3 名で手術・病棟・外来をこなしている。手術は月曜、水曜、金曜を中心に行っている。緊急手術に関しては麻酔科、手術室の協力の元に随時行っている。外来は火曜、木曜であり、今年度は形成外科と共同でセコンドオピニオン外来を開始予定である。

2.2 2005年度手術症例

水頭症	89	
VP/SP シヤント(新設)		28
VP/SP シヤント(再建)		23
神経内視鏡手術		14
リザーバー設置、シヤント抜去、内シヤント他		24
先天奇形	87	
二分頭蓋		8
脊髄髄膜瘤		10
脊髄脂肪腫(脂肪脊髄髄膜瘤など含む)	24	
脊髄係留		8
頭蓋骨縫合早期癒合症		23
頭蓋内嚢胞性病変(くも膜嚢胞他)		8
頭蓋頸椎移行部病変		5
その他		1
機能的疾患	24	
痙直型脳性麻痺/痙縮		
機能的脊髄後根切断術		24
てんかん	6	
てんかん焦点切除術		3
硬膜下電極設置術		3
腫瘍	21	
脳腫瘍		
テント上		9
テント下		6
頭蓋骨腫瘍		5
その他		1
血管障害	7	
もやもや/類もやもや病		4
頭蓋内/脳室内出血		2
ガレン大静脈瘤、脊髄動静脈瘻など		1
外傷	12	
硬膜下血腫/硬膜外血腫/硬膜下液貯留		9
その他		3
その他	15	
総計	261	

3. 研修会・講演会

第23回関東機能脳外科カンファレンス主催：東京、2006.9.1
臨床小児神経外科懇話会 約3ヵ月毎に開催。